聞
（第三種郵便物認可）
2024/10/30

中経論壇

経営支援ＮＰＯクラブ
井上　真己子

伝統文化の維持・継承をどうするか

愛知県設楽町田峯地区の奉納歌舞伎

愛知県設楽町田峯（だみね）地区に370年続く、田峰観音奉納歌舞伎を取材したことがある。2020年2月初め、ちょうど大型客船ダイヤモンド・プリンセス号が横浜に入港し、日本での新型コロナウイルス感染拡大の幕開けとなった頃で、人々は、その後長く続く悪夢をまだ知らなかった。

小雪の舞う朝から、田峰観音高勝寺の境内に設営された芝居小屋で、地区の児童や若者らが本格的な歌舞伎を披露した。桟敷席も立ち見も観客がひしめき、熱気がこもる。児童による「白浪五人男」や「義経千本桜」は、やんやの喝采。地区にたった1人の小学1年生の少女が登場して口上を述べると、何百もの視線が固唾（かたず）を呑んで見守った。この奉納歌舞伎は、その昔「村人が天領の木を誤って伐採したため、観音様に願をかけたところ、お役人が検分にやってくる夏の日に雪が降り、ついにはお咎めを免れた」という故事から始まった由緒ある伝統芸能だ。

政府が3密を避けましょうと呼びかけたのは、このわずか1カ月後のことだ。戦時中も続けられたこの祭りも、翌年からは開催が見送られた。その後の状況を聞くため、先日、田峯地区長の後藤峯樹（みねき）さんに電話をかけてみた。歌舞伎は、今年2月、4年ぶりに芝居小屋で再開され、地元や遠来の客でにぎわった。しかし、伝統を支えてきた田峯小学校は、児童数が4人に減ったため、この春閉校し、町の中心部にある田口小学校と統合したという。児童だけで演じられてきた演目も今後は難しいかもしれない。同じ2月、岩手県では千年以上の歴史をもつとされる「黒石寺蘇民祭」が、担い手不足を理由に幕を閉じた。過疎化や高齢化に苦しむ伝統行事は各地にある。人口200人を割った田峯地区で今後どうするのか、来年2月にむけて話し合うそうだ。後藤さんは、「少し形が変わっても、存続できれば」と話していた。

設楽町田峯地区は、名古屋から車で2時間弱。アクセスはまあまあとも言えるが、豊川に沿って山間を進む道中は旅情に富む。途中、織田信長と武田勝頼が戦った「長篠」の地名を見つければ、旅の気分は一層盛り上がるはずだ。のどかな地域に残る奉納歌舞伎は、観光にも一役買ってくれると思う。長い歴史のある小さな集落の決断を見守りたい。